

六十七期四班

七月二十四日、私たちはイオンシネマ津さんヘイంతタビューに伺い、支配人の坂井耕太郎さんにポップコーンの裏話など色々なお話を聞かせていただいた。

快適な上演空間

この映画館にはスクリーンが七つあり、最も大きい七番スクリーンには四百十八の客席と車椅子席が三席設けられている。上映する映画は月に三十〜四十本ほどで、幅広い年齢層に合わせた作品を楽しむことができる。ちなみに三重県にはイオンシネマとして運営する五つの映画館がある。これは人口に比べれば多いほうらしい。

映画の定番ポップコーンなあぜなあぜ？

さて、映画の醍醐味といえばポップコーンだと言う人も多いだろう。それもそのはず、この映画館では一日にSサイズのポップコーンが百個以上売れるのだそう。飲み物や食べ物には作品と関連付けたものもあり、来場者の声から期間限定のものが定番化することもある。例えば、今では年中楽しめる「柚子ジンジャー」も元々は期間限定の商品だったという。では、なぜ映画館でポップコーンを食べるようになったのかご存知だろうか。一つには咀嚼音や匂いが気にならないこともあるが、元々はアメリカでスクリー

ンに向かって物を投げる風習があることから、劇場内の機材に当たっても差し障りがない軽いポップコーンを映画館で販売するようになったそう。最近ではポップコーンにもさまざまな味があり、私たちを楽しませてくれる。

思い出づくりに限定グッズ

劇場では映画を見終わってからも映画のパンフレットやグッズを買って余韻を感じることができる。販売するグッズは新しい作品が始まるたびに入れ替わり、来場者のニーズに合わせて種類や個数を決めている。中には映画館限定のものもあり、映画との思い出を増やすことができる。

←通路に並ぶ七つのスクリーン



↑グッズ売り場



↑ポップコーン売り場